

## 令和元年度 大阪府立吹田支援学校 第2回学校運営協議会記録

日 時：令和元年 11 月 5 日（火）10:00～12:00 場所：本校会議室 司会：教頭  
出席者：学校運営協議会委員（6 名：私立大学講師、吹田市立中学校校長、吹田市障がい福祉室参事、私立保育園園長、特定非営利活動法人代表理事、本校 P T A 副会長）、校長、事務局（8 名）、本校職員（進路部より 1 名）

### 1 校長挨拶

本日はよろしくお願いたします。

2 学期も半ばをすぎ宿泊学習や修学旅行の泊行事が一段落しました。次は学習発表会にむけて児童生徒は練習に取り組んでいます。

報道にもありましたが、人権侵害の発言など由々しき事態が続いています。この点につきましては本校でも今後もさらに研修を進めていきたいと考えています。教員間のパワハラについても問題になっています。面談時に本校教員にもそのような事態がないか聞いていますが、今のところはありませぬ。今後も、アンテナを張っていきたいと考えています。

本日はお気づきの点、いろいろご指摘いただけたらありがたいです。

### 2 新委員紹介 吹田市福祉部障がい福祉室から交替で

### 3 報告・・・本校の取り組み

＜令和元年度 進路状況について＞

- ・高等部 3 年生の進路先について現状を資料もとに報告。

＜令和元年度 研修研究について＞

- ・特にアナフィラキシー対応に関連した研修について報告。

＜学校教育自己診断について＞

- ・例年通り、9～10 月にかけて、保護者・児童生徒・教職員を対象にアンケートを実施。
- ・今回は様式を見直し、府から指示のあった項目を主に精選を図った。
- ・児童・生徒むけは、学部によって様式や表記を変えている。
- ・回収率はややアップした。
- ・保護者と教職員については、4 段階＋「わからない」の 5 つからの選択評価。
- ・肯定的評価、否定的評価とおおまかに考えると肯定的評価 100% の項目もあった。
- ・本日配布した、結果の基礎データを元に、分析と改善策の検討をおこなう。

### 4 授業見学

- ・小学部高学年「グループ学習」の授業見学。15 分程度の見学。
- ・ICT も活用したソーシャルスキル学習。
- ・タブレットも活用したひらがなの書き取りなど

## 5 報告（続き）・・・本校の取り組み

### <宿泊行事と旅費について>

・各学部で実施している宿泊行事の一覧資料を示し、来年度から中学部 1 年生の宿泊学習を取りやめることの説明。その理由として、府の方針からの旅費削減について説明。

### <運動会>

- ・運動会の小学部児童の参加のあり方について、アンケートを実施したことを報告。
- ・その結果を踏まえ、来年度から小学部の児童は午前中のみの参加の形で検討中。

### <高等部修学旅行スライド>

- ・高等部 3 年修学旅行のスライドをお見せし、その解説。

（休憩）

## 6 協議（進行はA委員）

### <授業見学について>

E委員：学校場面でのソーシャルスキルをねらいに授業を実施していることについて、一つの授業の中でも、いろいろなやり方で取り組んでいることはよくわかりました。ただ、学習内容と実際の子どもの様子という点ではどうなのかなと思えました。あと、ホワイトボードに記入したことを消すのに、急いでのことかもしれませんが指で消していたのが気になりました。

A委員：その点については私も配慮が必要だと思います。

B委員：同じくです。

F委員：ソーシャルスキルの学習でロールプレイの手法は子どもにとってわかりやすいやり方と思いました。子どもも「じゃあやってみよう」という意欲が出てくると思います。ひらがなのなぞり書きを iPad でおこなっているのもよかったです。

D委員：教材が素晴らしかった。iPad を使って勉強しているということもあり非常に活気があった。一人ひとりに対応しているところもよかったです。

B委員：iPadは何台あるのでしょうか？（16台あります。）視覚に訴えている点がよかったです。とても素晴らしいICTを活用したビデオ教材でした。先生たちの準備する時間といったことは気になりました。

E委員：あと、呼名ですが、子どもを名前呼び捨てにしているのが気になりました。

B委員：上の名前呼びほうが良いと思います。

校長：教員には呼び捨てはいけないと言ってきています。下の名前呼びすることも時代的によくないと考えています。教員にも対応を考える機会をとっています。保護者の立場からはどうでしょうか？

F委員：みんなにこう呼んで欲しいという子もいるように思います。下の名前が嫌ということはないと思います。下の名前まで覚えてくれているのだなとも思えます。「さん」づけについても「ちゃん」と呼ばれる方が嬉しいと思っている子どももいるかと思います。

校長：授業場面では、名字で「さん」づけと考えています。

A委員：授業では名字で「さん」づけは当然ですし、社会に出たあとのことを思えば、小学校のうちから「さん」づけは対応すべきだと思います。たとえば、病院の受付で困らないように。

校長：現状、教員の意識は、呼び捨てはやめようというところだと思いますが、ご指摘をふまえて問題意識をもって今後考えていきたいと思っています。

C委員：授業の展開をみていると、体験重視というねらいがよかったと思いました。学習の導入としてICTを活用し、そのあとプリントでの学習と活動を広げていったことも。ICTに頼って良い部分とそれ以外を区別して使うことが大切だと思います。

A委員：私も展開という点でよかったと感じました。あと注文をつけるとなると、プリントの記名で、読みにくい名前を書いていたことが気になりました。その指導もしてほしいです。印鑑からサインへと時代は変化しています。読んでもらえる名前を書けるということは大切です。

#### <進路>

A委員：生活コースから4人、職業コースから3人就労とのことですが、職業コースについてアピールがあるのではないのでしょうか？（職業コースを選択しなくても就職できると捉えかねないのでは？）コースについての説明と選択に向けての指導はどうだったのでしょうか？

進路部：そもそも職業コースとは、週2回実習を実施することと、ビジネスマナーなど就労に向けての授業があることがカリキュラムの特色です。生活コースは、生徒の興味関心に応じた選択授業を選択できるというコースです。高2の春からコース制がスタートし、高1はコース選択の見極めをする時期で、保護者面談も実施します。職業コースに行かないと就労は希望できないというわけではなく、昨年度の場合、生徒30名中6名前後が就労を希望しており、このうち4名が職業コースか生活コースかを迷っていて、最終的に生活コースを選んだという状況でした。

E委員：職業コースを選んだのに、まだ就職が決まっていない生徒がいるとのことですが、職業コースの生徒に優先して進路先をまわらせてあげられないのでしょうか？せっかく職業コースを選んだのに就職が決まっていないというのは保護者の気持ちとしてもどうかと思うのですが？

進路部：本人の興味関心、特性と職場の求めていることとのマッチングがあるので、回すということはありません。

A委員：教員から見て、職業コースを選ぶ方がよかったと思う生徒はいないのでしょうか？また、生徒の中でも職業コースにすればよかったと途中で思う生徒もいるのでは？コース変更はできるのですか？できるならば、生徒に試しに声をかけてみるということはないのでしょうか？

高等部：今までコース変更をした生徒もいましたが、職業コースから生活コースへの変更でした。逆に、生活コースから職業コースへの変更はなく、変更したとしても生徒にとってしんどい選択であると思います。（どうしてもマナー学習などの面で差がついてしまうので。）高等部 1 年秋に、就ポツ実習で見極め、最終には保護者面談でコースを決定してもらいます。

E委員：職業自立コースは希望で選択できるのですか？

進路部：本人の希望でできます。そこまでのプロセスとして見極めや面談があります。

E委員：就職に向けては、技能やマナーを身につけるとい点もありますが、毎日休まず職場に行けるといのも大事なことだと思っています。

校長：今回、生活コースから就職が決まった生徒が多いのですが、就労に向けて生徒の力を引き上げた結果と捉えていただければありがたいと思います。

A委員：コース選択について色々な意見が出ましたが、今後も検討をよろしく願います。

#### <アナフィラキシーへの対応の研修>

A委員：具体的な研修内容はどうでしたか？

教頭：マニュアルに基づき、アナフィラキシーが発生した場合の学校対応について説明とエピペン注射の取り扱いについて実習をしました。その後に、ロールプレイを行い、対応について協議しました。

A委員：羽曳野支援学校で講習を毎年実施しているのはご存知ですか？

校長：はい、本校からも職員を行かせています。

C委員：アレルギーのある児童生徒の全体把握はしていますか？

校長：はい、全て把握しております。

#### <学校教育自己診断>

A委員：項目の見直しを行い、今後、しばらくはこれを基本に検討を進めるとのことでしたが、いかがでしょうか？

教頭：子どもへのアンケート実施は、用紙を持ち帰ってもらい家庭で行っています。

E委員：回答の選択として、「だいたいあてはまる」と「あまりあてはまらない」の違いはなんでしょうか？

教頭：ファジーな部分を作り、それについて肯定的か否定的に捉えているかを知るた

めです。この選択肢を置くことで、無回答を減らすという意図があります。

校 長：中学校ではいかがでしょうか？

C委員：同じく4択ですが、もう一つの選択として「わからない」という選択はありません。「だいたいあてはまる」という評価が、「あてはまる」になるよう改善を進めるということが大切だと思います。

<宿泊行事>

B委員：吹田市の中学校では、中2年の宿泊をやめました。旅費と言うこともありますが、社会の意識の変化もあると思います。修学旅行についても、個人旅行が主である現在、再考の必要性もあるかと思っています。

A委員：時代が変わってきているという実感があります。

B委員：例えば、スマホの取り扱いですが、修学旅行なのでスマホは必要ないので持ちものには含めないというわけには行かない現状があります。従来のやり方が合わなくなってきているということです。

E委員：事業所の職員研修で、宿泊研修を行っています。一泊の研修は残業という点から見てやめるのがいいのでしょうか、職員間の関係性を作られるという職場からの要望で続けています。

中学部：今回、中1の宿泊をなくすことになりましたが、該当学部の教員の思いとして、行事の積み上げで力を伸ばしていきたいという考えはあります。ただ、旅費削減という点ではどうしようもないと思っています。

校 長：修学旅行の実施については今後も第一に考えたいと思っています。小学部の宿泊学習は年齢的にみて実施する機会を持つということは意義があると思います。今回中学部1年の宿泊をやめることになりましたが、今後も旅費の削減が続くならばさらに見直す必要が出てきます。社会の意識の変化はありますが、支援学校で宿泊行事をする意義はこれからもあると考えます。

## 7 本日のまとめと挨拶

校 長：本日は長時間にわたる協議ありがとうございました。出されたご意見を踏まえ今後も改善に取り組みたいと思います。学校は、皆様をはじめとして、多くの人に支えられて発展していくものと感じております。今後どうぞよろしくお願いいたします。

## 8 事務局より

- ・次回は1月21日に3回目を実施

## 9 閉会